

令和4年度第1回室蘭市総合教育会議

会議録

令和4年度第1回室蘭市総合教育会議 会議録

1 日 時

令和4年6月29日（水）

開会 午後3時00分 閉会 午後3時35分

2 場 所

室蘭市役所 2階大会議室

3 次 第

1. 議 題

(1) 公立高等学校配置計画案（令和5年度（2023年度）～令和7年度（2025年度））について

(2) 令和4年度室蘭市標準学力検査の結果について

(3) 本市小・中学校における不登校・いじめの状況について

4 出席者

青山市長 伊藤教育長 奈良委員 前田委員 稲川委員 定廣委員
和野総務部長 坂口教育部長 高田教育指導参事 西舘教育部次長
齋藤総務部総務課長 船橋教育部総務課長補佐 山口学校教育課長
山崎生涯学習課長 佐藤生涯学習課主幹 伏見図書館長
本野学校給食センター所長 椎名指導主事 棟方指導主事

坂口教育部長

定刻になりましたので、ただいまより令和4年度第1回室蘭市総合教育会議を開会いたします。総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長により設置される会議でございまして、市長と教育委員会が意見交換する機会を設けることで、十分な意思疎通を図り、教育施策の方向性を共有しながら、連携して教育行政を推進することを目的としています。

それでは、お手元の次第に従いまして、本日の協議事項に入ります。ここからは、議長を市長に務めていただきます。よろしくお願いいたします。

青山市長

皆さま、お疲れ様です。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

本日の協議事項は、「公立高等学校配置計画案（令和5年度～7年度）」について、「令和4年度室蘭市標準学力検査の結果」について、「本市小・中学校における不登校・いじめの状況」についての3つの協議事項となっております。

それでは、「公立高等学校配置計画案（令和5年度～7年度）」について、事務局の説明をお願いします。

山口学校教育課長

それでは、議題1の公立高等学校配置計画案（令和5年度～令和7年度）についてご説明申し上げます。

既に報道等でご承知と思いますが、道教委は6月7日に公立高等学校配置計画案を発表しており、その中で、胆振西学区については、令和7年度に室蘭工業高校が1学級減となる方針が新たに示されました。

本日は、この計画案の概要のほか、胆振西学区の状況、今後の予定についてご説明しますのでよろしくお願いいたします。

はじめに、計画案の概要をまとめた資料1をご覧ください。計画案策定の考え方でございますが、趣旨については、高校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中学校卒業生数の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向等に対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、今後3年間の計画と

その後4年間の見通しが示されるものであります。

基本的考え方については、北海道教育委員会が平成30年3月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、教育水準の維持向上等を図る観点から、地域の実情や私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や再編整備等を行うこと、また、総合学科や普通科新学科の設置、単位制の導入、職業学科の学科転換等の多様なタイプの高校づくり等を推進することが示されております。

次に、1及び2の令和5年度と令和6年度高校配置計画の変更につきましては、昨年度に決定している計画からの変更について記載されておりますが、本市が含まれる胆振西学区にかかる変更はございませんでしたので、全道的な状況についてはこの場での説明を省略させていただきます。

裏面の3. 令和7年度の高校配置計画案についてをご覧ください。この度の計画案では、室蘭工業高校の1学級減が新たに示されており、主な計画の内容として、通学区域内の中学校卒業生数を基礎として生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況等を勘案しての学級減とされております。

続いて、胆振西学区の詳細な状況につきましては、資料2の16ページをご覧ください。表の上段が中学校卒業生数の状況で、R4は今年度3月の卒業生の実数、R5からR11までは今後の見込となっており、胆振西学区全体では、令和5年から令和11年までの増減が▲324名、令和8年から令和11年までの増減が▲157名の見込となっております。

また、表の下段が胆振西学区内公立高校の今年度の学級数と令和4年度の欠員、令和5年度から令和7年度までの計画案と令和8年度から令和11年度までの見通しとなっており、先ほど申し上げたとおり、令和7年度に室蘭工業高校の1学級減が新たに示されました。

更に、令和8年度から令和11年度までの見通しでは、4年間で公立校・私立校入学の比率を勘案しても3、4学級相当の中学校卒業生数が減少することや、最大学級

数を設置する室蘭市を中心に、周辺市を含め、再編整備を含めた定員調整の検討の必要性等が示されております。

続きまして、資料2が30ページまでありますが、一枚めくっていただいて、胆振西学区の状況について、さらに詳しくまとめました横表になっている資料3をご覧ください。本表は平成23年度以降の学校ごとの間口と定員、欠員についてまとめたもので、網掛けの部分は前年度からの変更箇所となっております。市内の全日制の高校の状況を見ますと、清水丘高校普通科が平成25年度に、東翔高校総合学科が令和2年度に間口が1減となっており、今回の計画案で間口減が示された室蘭工業高校に関しては、平成22年度に学科再編により材料技術科が廃止となり土木科が環境土木科に転換となったほか、令和元年度には情報技術科が廃止となっております。

続きまして一枚おめくりいただき、資料4ですが、本表は胆振西学区内の公立高校各校の今年の入学生の出身地の内訳を示した資料となっており、全体では43.9%の生徒が市・町外の学校に通っており、室蘭工業高校は43.0%が市外から通っている状況となっております。

最後に、今後の予定についてでございますが、最初の書類にお戻りになっていただいて、右上に協議事項(1)と記載された資料をご覧ください。3. 今後の予定に記載したとおり、本市は7月6日に室蘭市高等学校対策協議会の開催を予定しており、市内高等学校の校長やPTAの代表をはじめ小中学校の校長や連合町会、商工会議所等の代表の方々にお集まりいただき、計画案や市内高校の現状等について意見交換を行う予定です。

その後、7月中旬頃に道教委主催による地域別検討協議会の開催が予定されており、ここでの意見等を踏まえ、例年9月上旬に計画案が決定となる予定です。説明は以上でございます。

青山市長

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご質問等はありませんか。後程もし何かございましたらご発言いただければと思います。それでは、次の協議事項に移りたい

と思います。

続きまして、「令和4年度室蘭市標準学力検査の結果」について、事務局の説明をお願いします。

椎名指導主事

私からは、「令和4年度室蘭市標準学力検査の結果」について報告いたします。協議事項資料(2)をご覧ください。この検査は、室蘭市児童生徒の学力向上に向け、毎年4月に実施しているものでございます。対象学年は小学校4・5年生、中学校1・2年生で、連続した学年での継続的な学力の状況を把握できることが特徴の一つです。なお、検査は4月に実施されまして、昨年度の学習内容が出題されるため、1つ下の学年結果が反映されておりますのでご注意ください。

はじめに、「1 本市の学校ごとにおける、学力・教科別学力到達度」でございしますが、学力の到達度を全国平均点と比較したもので、(1)に今年度、(2)に昨年度の結果をお示ししました。表の中の数字は学校数を表し、それぞれピンク色・水色のセルが本市の平均を表しております。下段には評価の目安として、全国平均値を0とした場合の、各学校の状況を9段階でのカッティングポイントにて明記しております。

この資料より見られる成果と課題です。成果といたしましては、小中学校ともに、令和3年の結果と比べ、全体敵に下位層が減り学力の底上げが図られたこと、また、これに伴い、小学校5年生・中学校1年生において、国語の平均が引き上げられていること、また同じ学年で見ると見づらいのようですが、中学校においては、(2)令和3年度の中学校1年生の結果と(1)今年度の中学校2年生を比べていただくと明確ですが、去年1年生だった生徒が今年の2年生になったときの結果では、同一生徒の学力の向上が見られることが挙げられます。

課題といたしましては、小学校4年生の算数においては、上位層の減少と下位層の増加が見られ、市の平均値の低下が見られることが挙げられます。

続いて2ページ「2 令和4年度観点別到達度」をご覧ください。こちらは全国平均値ではなく、学習指導要

領における力の到達度を観点ごとに示したものです。棒グラフは上から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点を表しております。本市では力が「十分」ならびに「おおむね」に到達する、つまり小学校の通知表を想像していただくと良いと思いますが、「よくできました」が十分、「できました」がおおむね、「がんばりましょう」が不十分とお考えください。この十分とおおむねを併せて児童生徒の割合8割以上とすることを目標としております。なお、3ページには参考資料として、昨年度の結果をお示ししておりますので、併せてご確認ください。

戻りまして、2ページの令和4年度の成果といたしましては、国語においては、全ての対象学年にて、全ての観点で目標ラインの8割を超えることができたこと、算数においては、教科の基礎・基本の力となる「知識・技能」の力のさらなる定着が見られることが挙げられます。

課題といたしましては、算数・数学において、小学校4年生を除く学年で、思考・判断・表現の観点で、目標ラインを超えることができなかったことが挙げられます。

今回の検査全体としては、下学年からの基礎・基本的なことがらの定着・学力の底上げが、年々図られており、知識・技能の定着や、主体的に学習に取り組む態度等の改善が、平均点の向上につながっているものと考えられます。算数・数学の思考・判断・表現の力の弱さについては、さらに詳細に分析したところ全国平均と比べ決して低い数字ではなく、全国的な傾向ということが出来ます。このことにつきましては、教師からの一方的な教え込みではなく、対話や交流を通じてわかることや考えることの楽しさを味わわせる学習活動を充実させる等、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を続けるとともに、この結果を地域・保護者と共有し、連携を図ることで生活習慣・学習習慣の醸成に努めるよう各校へ指導してまいります。

青山市長

ただいまの説明に対しまして、ご質問等はありませんか。

青山市長

私の方から一点よろしいでしょうか。2ページ目にありました、算数・数学の思考ですが、不十分というかまだ到達していない部分があるということですが、この件の対策・対応は今後どのように現場で取り組んでいくご予定でしょうか。

椎名指導主事

まず、こちらの思考・判断・表現の力というのは、具体的に例えば算数でいいますと、大きな問題を解くときに、解き方や計算の順序を考えたり、解き方や考えを友達に説明したり、逆に友達の式の考え方に対して思考する力等を全体的に見取る力となっております。こういった力がまだまだ弱いというのは、やはり先生から一方的に教えられたことを理解する力があるにも関わらず、それをいろいろなものに活用できないというところがあるのかなと思います。

授業全体といたしまして、子どもたちがお互いの考えをどのように考えていくかということを表示したり、話し合ったりする中で、従来に言われているインプットという授業からアウトプット主体の授業を今後教育委員会としても先生方に広く情報提供していき授業改善していきたいと考えております。

青山市長

ほかにご質問等ございませんか。それでは、次の協議事項に移りたいと思います。

続きまして、「本市小・中学校における不登校・いじめ状況について、事務局の説明をお願いします。

棟方指導主事

それでは、私から報告事項の3「本市小・中学校における不登校・いじめの状況について」ご報告いたします。報告事項資料3の1ページをご覧ください。

はじめに、1番の不登校の状況についてをご覧ください。資料は、令和3年度の調査結果となります。

(1) 小学校の不登校発生件数は、合計38件、昨年度比14件の減少。(2)の不登校出現率では、令和2年度より出現率が低下しております。

次に、(3)中学校の不登校発生件数は合計133件

昨年度比58件増でした。(4)の不登校出現率では、令和2年度より出現率が増加しております。

不登校の増加にかかる要因の考察として、コロナ禍における生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況があったことや、学校生活における様々な制限の中で交友関係構築の困難さから、登校する意欲が湧きにくい状況にあったものと考えております。

続いて、2番の不登校における相談指導を受けた学校内外の機関について、ご覧ください。

主な相談機関として、(1)小学校は教育サポートセンターくじらんや養護教諭、スクールカウンセラー、(2)中学校では、病院やスクールカウンセラー等が挙げられております。不登校への対策として、引き続き、相談機関の積極的な活用を図ってまいります。

1枚おめくりください。次に、3番の不登校の主たる要因について、ご説明いたします。

小・中学校ともに、表の下の段にある「本人に係る状況」の「無気力・不安」がもっとも多く挙げられていました。

続いて(2)新規不登校児童生徒の推移では、特に中学1年生では24件、2年生では31件と、中学校での増加が確認されております。(3)不登校児童生徒への支援については、登校することを目標とするのではなく、児童生徒の社会的な自立を目指した支援を行ってまいります。

続いて、3ページの2番「いじめの認知状況」についてご説明いたします。1の(1)小学校では合計24件、

(2)中学校では合計20件のいじめが認知されております。(3)いじめ認知率につきましては、小学校・中学校ともに、全道・全国より低い傾向であります。教育委員会としましては、(4)いじめ認知に関する考え方、(5)各校におけるいじめ早期発見のための取組、(6)いじめの解消までを踏まえた上で、各学校への指導を徹底して参ります。

続きまして、4ページの2番「いじめ発見のきっかけ」について、主な発見要因は、小中学校ともに、学校の教

職員等のアンケート調査等によるもので、小学校では12件、中学校では18件でした。件数から見て取れますように、アンケート調査による発見が多いことが分かります。

3番「いじめの態様」につきましてご説明いたします。冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるという項目については、小学校では20件、中学校では12件と最も多く挙げられていました。

学校から聴き取りを行った内容では、中学校の下から4番目の金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりするという項目については、休み時間中に定規や筆記用具を隠されたとのことでした。

4番「いじめの現状の状況」につきましては、多くは解消しているものの、表の3段目、「いじめの行為は止んでおり、その状態が相当の期間継続しているが、被害児童生徒が心身の苦痛を訴えている」という項目については、現在も1名の児童が該当し、現在も児童のケアや保護者との教育相談を継続して行っております。

引き続き、市並びに各項のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止並びに早期発見・適切な事案対処の取組を推進して参ります。

最後に、現在室蘭市いじめ防止基本方針の改訂と室蘭市いじめ防止対策審議会の設置に向けて、準備を進めていることをご報告いたします。

以上で私からの説明を終わらせていただきます。

青山市長

ただいまの説明に対しまして、ご質問等はありませんか。

私からよろしいでしょうか。2ページの小中学校の不登校の要因のところ、中学生の無気力・不安が95という数字が少し大きく見えますが、コロナ禍の影響等がいくらか影響しているのではと推測しますが、この辺の理解や捉えはどのようになっていますか。

棟方指導主事

資料2ページ目の不登校の要因に関しまして、中学生に無気力・不安が特に多くなっております。こちらにつ

きましては、最初から無気力・不安をあげていたわけではない生徒もいたということが分析結果で分かっております。不登校が長期化する中で、無気力を訴える生徒や学業の不安を訴える生徒等がおります。不登校のきっかけについては、友人関係や家庭の問題等様々なきっかけがあった児童生徒もおりますが、長期化する中で、無気力・不安を訴える生徒が多かったと考えております。

青山市長

ほかにございませんでしょうか。

稲川委員

今話を聞いて、無気力や不安を個人のせいにはいけないと感じました。病院に来ている子たちはなんとかしようとしている子たちなので、この言葉で終わらせてしまうのではなく、この子たちにどのように気力を持たせてあげるか、また不安をどう解消してあげるのかということについて、教育委員会としてどのような方向性をもってやろうとしているのか教えてください。

棟方指導主事

まず、不安という点につきましては、学校風景に対して非常に不安を抱えている児童生徒がいると思っております。現在はサポートセンターくじらんと連携であったり、学校の教員だけではなく専門的なアドバイスももらえるように、スクールカウンセラーや病院へ繋げたり、学校内では別室登校や端末を利用して授業風景を見られるよう少しでも不安を除けるよう学習面でのサポートも進めているところであります。

稲川委員

そのような取り組みをして、コロナ禍の中で、勉強の遅れや健康面に対しての不安の中、昨年の子たちはどれだけ登校が可能になったのかということや、その子たちに対して学習面でのサポートシステムの良さがどれだけ発揮できたかという変化を統計データとして出していたらと思います。

伊藤教育長

学校復帰数があつたかと思えます。

棟方指導主事

はい。学校復帰数につきましては令和3年度は16%という数字が出ておりますが、令和4年度についても特に中学3年生が、進学に向けて復帰し始めているというお話も伺っております。

青山市長

ほかにございませんか。全体を通して1番目・2番目の協議事項ありましたら、この機会にご発言いただけたらと思います。ないようでしたら、本日の協議事項を終了し、進行を事務局に返します。

坂口教育部長

これもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を終了いたします。次回は、8月を予定しておりますので、改めてご案内させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。